



原町小だより 「はらまち」

川口市立原町小学校
全校児童数398名

「なかよく」「かしこく」「たくましく」

HPアドレス <https://haramachi-kawaguchi.edumap.jp/>

今年度を振り返って

校長 加田 明

今年度もあと1ヶ月となりました。

今年度は本来ならば東京オリンピックが開催され、活気にあふれた年になるはずでした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大のため、これまで誰も経験したことのない1年となりました。

振り返ってみますと、昨年1月、2月は、新型コロナウイルス感染症はまだ差し迫った危機感はないのですが、3月に入ると、急速にその影響が学校にも及ぶこととなります。3月2日より臨時休校期間に入り、昨年度の6年生にとっては、残された貴重な小学校生活を奪われた形になりました。卒業式は児童・教職員のみで行うこととなり、保護者の皆様には、卒業式の様子を少しでもお伝えしたいとの思いで設置した体育館の外のTVモニターを通して、卒業式の様子を見守っていただく形となりました。

今年度になり、4月8日に予定していた始業式・入学式が延期され、5月末までの休校延長となりました。1年生にとっては、小学校生活が始まる前からの長期の休校となりました。

休校中は、保護者の皆様の協力を得ながら、プリント等による課題に家庭で取り組んでいただきました。まだGIGAスクールが整備されていない学校で、子供たちの学びを保障するための方法はないか？教職員で知恵を出し合い、まずホームページのリニューアル整備を行いました。そして1日2時間分の授業動画を作成しホームページ上で配信することとしました。授業以外の動画も合わせると、作成し配信した動画は233本になりました。

6月になり、ようやく始業式・入学式が行われました。入学式は、地区を分け2部制で実施しました。子供同士が関わりをもち集団生活をおくることから、たくさんのお話を学ぶのが学校教育ですが、再開された学校生活は今までは一変し、マスクをつけてソーシャルディスタンスをとることが集団生活の条件となりました。様々な学校行事の変更・中止・縮小も余儀なくされました。それでも原町小学校の子供たちは新たなルールをしっかりと守り、与えられた条件の中でもたくましく今日まで学校生活を続けてきました。

保護者や地域の方々の応援もたくさんいただきました。学校運営協議会・学校応援団の皆さんが6年生のためにキャンプファイヤーを企画してくださり、小学校生活最後の年の大切な思い出を作ることができました。地域とのつながりの深さを改めて感じることができました。

本校では子供たちの学校環境、学習環境づくりのためにご尽力しているPTA活動の他に、様々なボランティア活動も行っています。消毒ボランティアとして地域や保護者の29名の方に子供たちが使う教室の机や椅子を毎日消毒していただいています。そのおかげで子供たちは安心して学校生活を送ることができています。なわとび大会は保護者ボランティア(25名)のおかげで2回実施することができました。図書ボランティアの方には、貸し出し図書のバーコード化に向けての準備やカバーの貼り付け、図書室や図書室前廊下の装飾など子供たちの読書活動推進に献身的に取り組んでいただきました。そのほかミニボランティア、書初めボランティア、揮毫ボランティア等、子供たちのために様々なご協力をいただきました。登下校の安全見守りでは、保護者の方にご協力いただいている朝の輪番制スクールガードの他に3~4か所で地域の方による登下校の安全見守り活動を毎日行っており子供たちに声をかけていただいています。

6月に学校が再開した当初は、元気がない様子の子供たちも見られましたが、保護者や地域の方々の支えがあり、子供たちの顔に笑顔がよみがえってきました。

学校は、学習を保障する場という役割だけでなく、様々な人と安全・安心につながることで、心や体の健康を保障する居場所としての役割を担っているという認識が、コロナ禍の中で改めて深まりました。そのためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たすとともに、子供たちのために連携していく必要があります。原町小学校では、地域、保護者の皆さんの協力をたくさんいただき、相互に連携・協働して地域全体で子供たちの成長を支えていく環境を整えることができています。来年度はその輪を広げて、地域の学校として原町小学校をさらに笑顔あふれる地域に愛される学校にしていきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。

